

平成 26 年度
所管事務調査報告書

産業建設委員会

平成 26 年 12 月 18 日

飯田市議会

平成 26 年度 飯田市議会 産業建設委員会 管外視察報告

平成 26 年 12 月 18 日

1 実施期日

平成 26 年 10 月 20 日（月）～22 日（水）

2 視察項目および視察先

- (1) 観光戦略からのシティブランド事業の取り組みについて
熊本市
- (2) 黒川温泉観光旅館協同組合の取り組みについて
熊本県阿蘇郡南小国町
- (3) 新幹線によるまちづくり
駅周辺整備と誘客プロモーションの取り組みについて 佐賀県 鳥栖市
- (4) J A 糸島の産直市場「伊都菜彩」視察 福岡県 糸島市
- (5) 鳥獣被害対策、農業農村 6 次産業化支援事業の取り組みについて
福岡県 糸島市

3 参加者

産業建設委員長 吉川秋利、産業建設副委員長 後藤荘一
熊谷泰人、山崎昌伸、森本政人、福沢 清、木下克志

4 視察概要（視察報告）

(1) 観光戦略からのシティブランド事業の取り組みについて

ア 調査概要

- (ア) 日時 10月20日（月） 13：30～15：00
(イ) 場所 熊本市役所
(ウ) 説明者 熊本市観光文化交流局シティプロモーション課
主幹兼主査 福田智子 氏
主事 柚木三保 氏
(エ) 議会対応 市議会副議長 鈴木 弘 氏
市議会事務局調査係 濱崎尚章 氏

イ 調査報告

(ア) 取り組みの経過

- ・少子高齢化による人口減少時代にあたり、持続安定的な成長を確保するために、これまでの社会経済システムの抜本的な見直しを必要とした。それは今後について、自治体と市民の努力が、地域の発展を左右すると考え、交流人口を増加させるための施策を積極的に展開する必要がある。
- ・そのための重要な戦略の一つとして「都市ブランド」を確立し、発信する必要がある。従って、熊本市の有する様々な資源を最大限に活用すると共に、新たな資源を内外から獲得し、都市の力として定着させていくこととした。

(イ) 現状及び成果と課題

- ・熊本城の様に認知度はあるが、新たな魅力が不足しているものについては、ストーリー性を持たせるなどにより、付加価値をつける。
例) 本丸御殿の復元、一口（1万円）城主の募集など
- ・わかりやすい都市のイメージを連想させる戦略が必要ということで、みどり（自然＝森の都）、あか（火の国＝「もっこす」の情熱）、あお（水＝日本一の地下水都市）を基本に展開している。
- ・ブランディングを行う目的とターゲットの明確化が必要である。ターゲットとしては、九州新幹線開業と関連して、九州各都市はもちろん関西以西の新幹線沿線各都市・くまもと空港から直行便の就航している都市・韓国中国など熊本市に近く経済発展しているアジアの国々が示された。

(ウ) 誘客への展開

- ・県と市と連携したプロモーション活動として、観光や農産物のPRを東京ドームで行うほか、関西・大阪で観光と物産展などを行っている。

ウ まとめ・考察

- ・2013年に国連の「生命の水」最優秀賞受賞ということで、日本一の地下水都市ということをもっと最大の見せ場にしてほしい。全国的にはあまり知られていないとは思えないが、大きな強みであると感じた。
- ・説明者が女性であり、最近の傾向として、飯田市としても考慮すべきと思う。

エ 各委員の所感

(ア) 良かった点

- ・熊本市のシティブランドプランがわかった。 （後藤荘一）
- ・現状把握の取組みとして、知名度向上調査を実施し課題を見つけ出した。
- ・熊本城本丸御殿復元での一口城主の取組み （熊谷泰人）
- ・認知度や認知度の特性のグラフ化、他の都市とのイメージ面での比較の数値化など、熊本市の姿が明確にされている。
- ・ターゲットが明確で、優先順位づけがなされている。
- ・ブランドの構成要素が、ブルー・グリーン・レッドの三色で現されイメージしやすい。キャッチコピーで “!?” の部分に呼び水ワードとしてタイムリーに入れていく柔軟性
- ・女性の力の活用 （山崎昌伸）
- ・熊本地下水保全活動・・・阿蘇山森林保全対策・・・湧く湧く熊本
- ・ココロシティトラム・・・市内電車の一編成がジョイフルトレイン
（森本政人）
- ・知名度の高い「熊本城」だけにこだわらず、「地下水」に注目して、その対策をうち、ブランド戦略の柱にしている。 （福沢 清）

(イ) 参考となりそうな点

- ・認知度調査などさまざまな取組みをしている。 （後藤荘一）
- ・認知度調査や一口城主の取組み、ストーリー戦略におけるリーディング事業、フェイスブック運用。 （熊谷泰人）
- ・良かった点は総て参考とし、生かす必要があると考える。 （山崎昌伸）
- ・軌道は無いけど既に飯田市内でも電気自動車プッチーが走っているので、更に日常性を持たせたらいいのではないか。 （森本政人）
- ・シティプロモーション課に女性職員の意見が反映されていること。
（福沢 清）

(イ) その他、感じたこと等

- ・女性職員がリーダーとなって女性の視点で取り組んでいる。
- ・女性の観光客が増加している今日、女性の視点での取組みは飯田市でも必要なのではないかと思う。 （後藤荘一）

- ・熊本城や水前寺公園またラーメンなど全国レベルの観光資源があり、既に充分全国的にも知名度があると思われるが、更に上を目指した取り組みを行っている。当市でも認知度調査の取り組みを行うなど現状を把握し、新たな事業展開を模索する必要があるのではないかと感じた。
- ・路面電車 COCORO の取り組みについて、最近「ななつ星」や、しなの鉄道「ろくもん」など豪華列車の企画が多くなっている、飯田線の観光列車について広域連合での取り組みが必要ではないかと感じた。（熊谷泰人）
- ・熊本市のみならず、九州の各地で水を前面に出した戦略が練られていることに驚きを感じた。海に囲まれた九州に「おいしい水」のイメージはなかったが、山に囲まれた長野県なら「おいしい水」のイメージはわきやすいので、もっと力を入れるべきでは。
- ・熊本市は、熊本城をはじめ観光資源には恵まれている部類と思われるが、その熊本市でもシティブランドへの取り組みは相当なものがあり、今後の飯田市としては、熊本市の何倍も力を入れなくてはリニアを生かせないのでは、と感じた。ただし、専門家と行政のみで策定されていて、市民参加がなされていない点は疑問。（山崎昌伸）
- ・地の利を生かした東アジア戦略を謳っていた。飯田市は内陸部ではあるが中国人も増えつつあるような気がするので、もっと戦略的に施策が考えられないだろうか。（森本政人）
- ・熊本のよう有名な政令都市でもシティブランド、シティプロモーション事業を行っていることに驚いた。（福沢 清）

(2) 黒川温泉観光旅館協同組合の取り組みについて

ア 調査概要

- (ア) 日時 10月21日(火) 9:00～10:30
(イ) 場所 熊本県阿蘇郡南小国町
(ウ) 説明者 黒川温泉観光旅館協同組合 代表理事 下城誉裕 氏

イ 調査報告

(ア) 取り組みの経過

・温泉としての歴史は古いが、土日以外は客足も少なく、経営的にも混迷していた。そんな中、客足の絶えない旅館があり、その教えを受け、地域一体となった黒川温泉として営業を始めた。露天風呂を作り、山から何の変哲もない雑木をもってきて、あるがままの自然を感じさせる風呂とした。このことにより、女性客が続々と訪れるようになり、リピーターも増えた。

(イ) 現状及び成果と課題

・露天風呂めぐりの「入湯手形」(1,300円)を購入すると、3か所の露天風呂に入ることができる。入浴時間は8:00～21:00までとなっている。全員体験したが、到着時間が17:30頃になり、忙しい視察となった。元々が手作りの露天風呂であり、一度に入れるのは10人程度の規模。また、女性客優遇で、女性の風呂への入り口はいくつかあっても男性用の専用入口はない(男女どちらが入ってもよい)。夜間の飲み屋は1軒のみ存在しているとのこと。

(ウ) 誘客への展開

・「入湯手形」の収益により、インターネットや雑誌を利用して情報発信している。しかし、来訪者も多いため、立ち寄り方のツアー客には「入湯手形」を発行しないと、モラルの悪い外国人客などには規制をしているとのことだった。

ウ まとめ・考察

・「町全体が一つの宿 通りは廊下 旅館は客室」をキャッチフレーズにし、24軒が一体となって展開をしている。創業時、土日以外はお客が来ないので、みんなでソフトボールをやっていた。実業団でもかなりの強さを誇ったというエピソードを聞いたが、このチームワークが歯抜けにもならず、今のまとまりのもとになったと納得した。景観にも配慮し、問題の看板は撤去(200本)し、鄙びた情緒をよみがえらせた。

エ 各委員の所感

(ア) 良かった点

- ・露天風呂めぐりの取り組みを実際に体験できてよかった。(後藤荘一)
- ・若者(Uターン者)達が都会生活での経験から、新しい温泉観光の振興策を中心勢力となって考え実行に移していった。コンセプト(田舎の風情・景観)目玉(自然な露天風呂)戦略(入湯手形)武器(80～100度の良質

な温泉)この振興策は、わずか24軒の旅館(400室)に年間100万人もの入客がある温泉郷として大成功を収めた。(熊谷泰人)

- ・温泉地として、建物も看板類も道路にも植樹をして統一イメージを持たせていること。それも、「自然」をキーワードとしている。その上で、各旅館の風呂がそれぞれに特徴を持っている点。
- ・「街全体が一つの宿、通りは廊下、旅館は客室」というキャッチフレーズからも、組合が運命共同体として同じ方向を向いて協力していこうとしていることが伝わってきた。組合の役員も青壮年層で構成され、組合長は同じ人が二度はやらないという不文律があるとのこと。これらによって、各旅館が二代目三代目へと継承される好循環が生まれているのではないかと、思われる。また、温泉手形からの収入が組合の資金源となって、情報発信やイメージづくりなど、個々の旅館でなく組合としての活動が活発に行われている。
- ・宴会付きの団体旅行を求めず、温泉を楽しむ人々をターゲットにしている点が、黒川温泉の風情と時代にマッチしている。(山崎昌伸)
- ・強力なリーダーがいたとはいえ、旅館業者一体となって新戦略に取り組んだこと、複数の温泉が近くに点在していて湯治客に露店風呂トリミングの面白さを味わわせられること、そして温泉ガールも訪れる混浴露店風呂であること。
- ・鄙びた湯宿で新しい顧客を掴んだこと。(森本政人)
- ・温泉観光協同組合の団結力がすばらしい。環境(看板や景観の整備)手形のアイディアに反映されている。(福沢 清)

(イ) 参考となりそうな点

- ・インターネットを使って客を呼び込んでいる。
- ・協会全体で看板の形を統一し、景観づくりなど環境を整えている。
- ・やはり、こういう観光地にはリーダー的な人物がいる。黒川温泉もそういう人の指導で成功しているという印象を受けた。(後藤荘一)
- ・行政に頼るのではなく、旅館経営者達が中心となって旅館組合の再編強化を行ない、組合員全員参加による事業展開に取り組んだ。それを主導した成功者(強いリーダー)がいたこと。「人」が地域を引っ張る。
(熊谷泰人)
- ・統一的なイメージづくり、協同組合のあり方。(山崎昌伸)
- ・田舎づくりプロジェクト・・・環境班・企画班・看板班とシンプルな組織で能動的な改革を進めたこと。(森本政人)

・情報発信の方法については、今の時代求められている。（福沢 清）

(ウ) その他、感じたこと等

・「田舎を客は感じに来る」「山を見ながら入る露天風呂」という言葉が印象的だった。（後藤荘一）

・地域の活性化には地域の住民が本気になって取り組んで行くべき。行政はそれを支える事業を行うべきであろう。地域のまとまりとそれを先導する人材が大切である。行政としては、今、来てくれている観光客への意識調査や人材の発掘・育成が必要と感じた。（熊谷泰人）

・温泉手形による風呂巡りの際、狭い道路に車が入り込んでくることに違和感を覚えた。労働力不足と外国からの誘客という点で致し方ない面もあるが、外国人女性の仲居さんは、黒川温泉に馴染まないのではないか。それでも、機会があれば再度訪れてみたいと思わせてくれる温泉地だった。その際には、3コースあるウォーキングコースも歩いてみたいと思う。
（山崎昌伸）

・天龍峡に即適用とはいかないだろうが積極姿勢の一つとして学ぶ必要を感じた。（森本政人）

・外国人の方が日本の魅力に感動していただいていること。（福沢 清）

(3) 新幹線によるまちづくり

駅周辺整備と誘客プロモーションの取り組みについて

ア 調査概要

- (ア) 日時 10月21日(火) 13:30～15:00
(イ) 場所 鳥栖市役所並びに新鳥栖駅周辺
(ウ) 説明者 鳥栖市環境経済部商工振興課商工観光労政係

向井道宣 氏

建設部都市整備課新幹線対策係 主査 於保 順一氏

建設部都市整備課課長補佐兼新幹線対策係

佐藤 晃一 氏

- (イ) 議会対応 議会事務局 事務局長 江崎 嗣宜 氏
庶務係長 野中 潤二 氏

イ 調査報告

(ア) 取り組みの経過

- ・人の流れが博多から熊本、鹿児島に流れてしまわないように、長崎、大分、佐賀といった横軸を設定する中で、通過点にならないように、鳥栖にハブ機能を持たせ少しでも交流人口の滞留を目指した。

(イ) 現状及び成果と課題

- ・J1サガン鳥栖のホームスタジアムを持ち、国際試合も積極的に招致している。
- ・九州国際重粒子線がん治療センターの誘致と開設は最先端技術と患者という観点から有意義。

(ウ) 誘客への展開

- ・コンベンション誘致に重点を置いている。鳥栖市で開催される催しの規模等により5万円から50万円の補助を行っている。
- ・20台分の大型バスプールと606台分のパークアンドライド駐車場を設備し誘客に備えている。

ウ まとめ・考察

- ・誘客プロモーションとしては、豊富な水資源と災害の少ないことをセールスポイントにして、観光客ばかりでなく、企業誘致も積極的に行っている。
- ・他地区の新幹線駅に比べ、開発が進んでいるように感じた。3年前は土の面が多かったが、施設や緑が増えてきている。

エ 各委員の所感

(ア) 良かった点

- ・九州新幹線が開業して3年経過した、現在の新鳥栖駅周辺の状況が分かった。(後藤荘一)

- ・新駅を大分や福岡、熊本へのハブ駅としてとらえ、20台の観光バス駐車場の設置を行った。
 - ・コンベンション誘致の取組み
 - ・長崎本線との結節 (熊谷泰人)

 - ・目玉となる観光資源に恵まれないなかで、JRの在来線や高速道路網も含めて九州を縦横につなぐ結節点を前面に出してコンベンションシティを構築しようとしている。
 - ・「鳥栖は鳥栖だけでは生きられない。九州各地を回るスタート地点であると同時に、たとえ1時間でも鳥栖に滞在してもらうことを考える。」という考え方の基に、地域特性をわきまえ交流人口の増加を図っている。(久光製薬などの有名企業の存在や、内陸工業地、物流の中心地といった産業が盛んな事にも裏打ちされていると思われるが)
 - ・それを生かす為の駐車場の整備と、駐車料金の設定。
 - ・駅前に「ガン治療センター」を誘致した。
 - ・新幹線駅のイメージを、子どもの絵画コンテストを行うなかで、鳥栖(鳥の栖み家)という由来から鳥のイメージをデザインした。(山崎昌伸)

 - ・新鳥栖駅が長崎本線上に計画されないということで鳥栖市民の誘致運動が起こった事により請願駅ではあるが市民の意志が通ったこと。
 - ・事業認可の前に公共用地を取得したこと。(森本政人)

 - ・新幹線と在来線駅が歩いて行ける距離になったこと。(福沢 清)

 - ・在来線との結節が上手に機能し、交流人口増に貢献。
 - ・地の利を生かして工夫がみられる。鳥栖駅を基点(発着点)としたコースの開発⇒縦軸と横軸 (木下克志)
- (イ) 参考となりそうな点
- ・九州国際重粒子線がん治療センターの誘致
 - ・交流人口拡大のためのコンベンション誘致の取組み。(熊谷泰人)

 - ・コンベンションシティの考え方や、「ガン治療センター」などの高度医療機関については、飯伊地域の自然を生かしながら取り組めるものとして研究の余地は十分にあるのではないか。鳥栖と飯伊では、都市の背景が異なるので一概にはいえないが、定住人口と交流人口の増加について、バランスをどう考えるかも重要と思われる。(山崎昌伸)

 - ・駐車場料金を低廉に抑えたこと。・・・一日百円 (森本政人)

 - ・個々は条件が備わっていたので、正直あまりないように感じた。(福沢 清)

- ・交通の要衝という地の利
高速道路（九州自動車道・長崎自動車道）⇒中央道からスマート I Cで
国道（R 3 号・34 号鳥栖筑紫野バイパス）⇒R153 号・151 号
鉄道（長崎本線と結節）⇒飯田線と結節
- ・駅舎のデザイン
- ・県の枠を超えた横軸連携（木下克志）

(ウ) その他、感じたこと等

- ・駅周辺に商店などが来るのを期待して区画整理をしたようだが、まだ一軒も来ていない状況は印象に残った。（後藤荘一）
- ・スポーツ振興に力を入れている。国際試合の出来る競技場、サッカー J 1 の「サガン鳥栖」のホームスタジアムがある。市はチームに対しては補助をしていないが建設費は 100 億を投資した。年間 22 万人の来場者があり、平成 25 年には「なでしこジャパン」の国際試合を行っている。交流人口拡大のためのコンベンション誘致に重点をおき、各種スポーツ大会の開催や各種団体が行う総会・大会・催事などに対し補助を行っている。
- ・飯田市では、中央道沿線や 60 歳以上ソフトボール大会などのスポーツ大会が行われ、他地域からの交流もあるが、補助を無くす方向に有り、考え方に大きな差がある。県外からの交流人口拡大には、各種スポーツ大会の開催は絶好の機会であり、訪れてくれた人達への「おもてなし」こそが、交流人口を増やすために必要ではないかと感じた。（熊谷泰人）
- ・交通の結節点＝通過点とならないための施策の難しさ。間違えると飯伊は一通過点となってしまう危険性をはらんでいる。（山崎昌伸）
- ・人口規模が飯田市より少ないとはいえ、企業数・就労人口・J リーグチーム・バレーボールプロチームそして市政施行の昭和 29 年以降人口減少も無く毎年平均 800 人位ずつ増えているという羨ましい都市だった。（森本政人）
- ・九州の交通のかなめになっていることが人口増や今後の発展に繋がると思う。（福沢 清）
- ・新鳥栖駅を九州の発着点としたコースの開発（横軸と縦軸）に見られる様に拠点とする取り組みに意欲的。
- ・駐車場 24 時間 100 円⇒利用者増へ（木下克志）

(4) 鳥獣被害対策、農業農村6次産業化支援事業の取り組みについて

福岡県 糸島市

ア 調査概要

- (ア) 日時 10月22日(水) 10:00~11:00
(イ) 場所 J A伊都菜彩の視察
(ウ) 説明者 なし
(エ) 日時 10月22日(水) 13:30~15:00
(オ) 場所 糸島市役所
(カ) 説明者 糸島市議会 副議長 谷口 一成 氏
農林水産部農業振興課 課長 岩永 剛彦 氏
農政係 係長 大櫛 邦生 氏
農林土木課農地整備係 係長 庄島 明宏 氏

イ 調査報告

(ア) J A伊都菜彩の視察

・糸島市の視察を行う前に、実際にどのように運用されているのか施設の視察を行った。非常に広い売り場が、野菜・花・餅などのいわゆる6次産業品・鮮魚のブロックに分かれており、平日でも2,500人の客が訪れるとのことまでにぎわいを見せていた。

(イ) 取り組みの経過

・農業6次産業化については、まず農力を育むことを目的とし、H22.1.1に基本条例を制定した。この条例の基本理念は、食糧(キーワードは地産池消)・農業(キーワードは多様な担い手)・農村(キーワードは環境・連携・交流)ということをも市民みんなで育んでいく。

(ウ) 現状及び成果と課題

・基本条例を制定し、目指す主なものは「地産池消応援店舗数 73⇒150」「耕作再開面積 0.5ha⇒13ha」など耕作放棄地の再生や雇用の創出に取り組んでいる。又、生産ラインのすべてを糸島市内の業者で行い、原材料の洗浄を市内の福祉施設に委託するなど、他産業との連携も行っている。
・6次産業としては糸島発祥の柑橘「はるか」や「甘夏」「豚肉」「鱈」などを使って商品化を行った。糸島産の食材に新しい発想の高付加価値をつけることにより、農家や漁師のやる気を掘り起こす取り組みとしている。
・鳥獣害対策については、民間の鳥獣被害対策実施隊員の任命による捕獲活動は即日対応することで、捕獲頭数が飛躍的に増加した。
・またジビエ料理として、ウインナー・ジャーキー・ロースハム・精肉として流通させている。

ウ まとめ・考察

・J A伊都菜彩については、スケールと品数の多さには驚いた。生産者も常に新しい品物を供給しており、どんどんさばけて行った。特に花卉売り場は広く、飯田市が目指した花卉市場よりも活気があった。福岡という大消費地を控えていることもあるが、日本一の売り上げを誇るにぎわいであった。

- ・農業6次産業化については、まず農力を育むことを基本にした取り組みで、特産品に新しい発想で付加価値をつけている。
- ・鳥獣害対策については、飯田市よりも対応が早い。しかし、ジビエ料理としての加工品は、コスト的な問題を抱えている。

エ 各委員の所感

(ア) 良かった点

- ・J A伊都菜彩
- ・新商品開発の取り組み（熊谷泰人）
- ・鳥獣被害については、地形的にも対象動物が当地域と異なるが、対策の柱は個体数の減少にある事が確認できた。
- ・獣肉の処理においても、流通と消費先の確保が課題との事で、これも共通であることが確認できた。
- ・農業の6次産業化については、「糸島市農力を育む基本計画」におけるキーワードに「市民参画」が掲げられており、基本計画に基づいて制定された条例には、市、農業者の責務、食品産業事業者の責務と役割、市民の役割が規定され、市が一丸となって農業振興に取り組む姿勢が見てとれた。更には、九州大学との連携なども重要と感じた。（山崎昌伸）
- ・獣肉販路・ジビエ料理に挑戦していたこと。
- ・「伊都菜彩」という大手資本に頼らない地元巨大マーケットの存在
(森本政人)
- ・6次産業化について人材育成が図られていること、又その人たちがネットワークを創っている模様（福沢 清）
- ・域内に日本一があることで活気づく。（木下克志）

(イ) 参考となりそうな点

- ・農力を育む基本条例を策定し、基本計画をつくって進行管理していることは参考になる。
- ・鳥獣害対策は、糸島も実施隊を組織して取り組んでいる。（後藤荘一）
- ・有害鳥獣対策実施隊の取り組み方。（熊谷泰人）
- ・鳥獣被害の被害住民が、市にメール登録している事により、迅速に被害状況を把握でき対策が打てるのではないかと。猪を昔は「山クジラ」といった事から「浮嶽くじら」のネーミングでブランド化して売り出している点。農業の6次産業化については、「農力を育む基本計画」がしっかりしてい

て、市をあげて農業振興に取り組んでいる点。これからの飯伊にも求められる事と思う。（山崎昌伸）

- ・ 未来を切り開く人材育成事業・・・ネットワークの形成（森本政人）
- ・ 今後、6次産業化を育てていく時には、飯田でも同様の取り組みが求められる。（人財育成、販売経路の発掘）（福沢 清）
- ・ 「伊都菜彩」は素晴らしい 品数豊富、鮮度抜群、客数も多い
ここに至るまでの知恵、工夫を調査、学びたい。（木下克志）

(ウ) その他、感じたこと等

- ・ ファーマーズマーケット J A 糸島「伊都菜彩」を実際に見て、平日にもかかわらず多くの客に驚いた。これも福岡という消費地があるためかと思った。農家の取り組む農産物も福岡市民をターゲットにしたものになっている。
- ・ 6次産業化は糸島市の場合もまだ時間がかかると思った。
- ・ 鳥獣害対策については、飯田市の方が深刻度は高い。（後藤荘一）
- ・ 有害鳥獣対策：飯田市での猟友会の実情も踏まえ今後の実施隊の取り組みについて、地方事務所や猟友会・協議会など一同に会し協議を行い、連絡体制や実施の方法等検討を行い、条例等の整備を行う必要があると感じた。
- ・ ジビエ獣肉処理加工施設の必要性：獣肉の衛生管理や調理に対する消費者の心配がある。加工施設の建設は安心安全の食材提供には欠かせない課題で有り、今後検討していくべきであろう。
- ・ 座光寺スマート I C からリニア新駅へのアクセスルート近郊に、日本一のファーマーズマーケット（果実・野菜・花卉・和菓子・ジビエ・・・etc.）も一考でなないかと感じた。
- ・ 中山間地域の遊休農地に適した、新農産物の開発や新商品の開発・販路の拡大など研究すべきことが多くあることを感じた。（熊谷泰人）
- ・ 近隣に福岡という消費地をもち、日本一の売上を誇る「伊都菜彩」の存在が農業振興に大きく貢献しているのでは、と感じた。更に、古代の伊都国が栄えたのも、この地域が地形や気候風土に恵まれていた事が一つの理由と考えられ、歴史的にも農漁業が盛んになる要素が合ったのではと思う。その意味では、強みを生かした戦略がきちんと構築されていると感じた。（山崎昌伸）
- ・ 福岡市という巨大人口集積地から近く伊都菜彩への買い物客が多い、飯田市との差を感じた。
- ・ 進取気鋭に富む九州人の逞しさを感じた。（森本政人）

- ・九州大学との連携が今後の糸島市のカギを握ると思う。
- ・日本一の売上だけあって「伊都彩々」のにぎやかさはすごかった。
(福沢 清)

- ・同じ鳥獣被害でも対象鳥獣が違っていると、対策も違ってくる。共通認識として里山を荒らさないことと、それぞれの鳥獣の個体数の調節が大事。
(木下克志)

5 管外視察全体をとおしての感想など

- ・行政のやるべき事、地域がやるべき事、住民自らがやるべき事それぞれが連携を取りながら、きちんとコンセプトを持って進むべきであろう。(熊谷泰人)

- ・当委員会の持つ課題に対して的を射た視察内容であった。(木下克志)